

No.87 2021.4

# 同経会報

- 春号 -

新島襄先生の言葉  
卒業生からの便り

教授インタビュー 横井和彦氏

特別インタビュー 高木壽一氏

現役学生が語る「わがゼミ」

自由を得るも又これを我儘に用ゆるの憂いあり

出典：同志社編『新島襄教育宗教論集』岩波文庫 293頁

photo：山本清（昭和40年卒）

学問にのみ頼み、また誇るからあぶない。

学問を主の為に用ゆ、豈あぶない事あらんや

出典：同志社編『新島襄教育宗教論集』岩波文庫 243頁



## 同経会会長からのご挨拶

同経会会長 服部盛隆



大変な「時」を迎えています。

同経会の皆さん、如何お過ごしでしょうか。

2020年、記憶し易いこの年に、多くの重要な出来事がありました。米中関係が極度に緊張、世界を変え得る米大統領選挙、わが国でも最長不測の安倍内閣が菅内閣に替わりました。

その中でも、明解に歴史に残るのは、人類を脅かす感染症「新型コロナウイルス」のパンデミックだと思っています。

今年の1月に漸くWHOの調査団が中国武漢に入ったとの報道がありました。発生源をはじ

め科学的な調査が進むことを期待したいと思います。

ます。一昨年の12月に、校友会上海支部の「海外大懇親会」が開催され、直後にお隣の蘇州市を訪問、私も駐在員事務所の皆さんと、久しぶりに歓談しましたが、当然ながら武漢のコロナの話など、全くありませんでした。それから僅か一カ月後の昨年1月15日に、日本で初めて感染者が確認されました。武漢から帰国された方でした。

コロナのニュースは、年間を通じて注意深く見聞きしましたが、最近NHKが興味深い報道をしていました。世界の賢人12名に、質問を投げかけたNHKスペシャルからです。

・ 新型コロナウイルスと気温、湿度の関係では夏は数時間で死ぬが冬場は10数時間生きている。  
・ 東南アジアで感染者が少ないのは特殊性による。ネアンデルタール人の遺伝子が少ない。季節性インフルエンザで交叉免疫が生まれている。マスクの習慣などなど。

・ 予防に役立つものとして低濃度オゾンの活用、紫外線での消毒、加湿器で線毛を活性化するなど、興味深い最新のご意見もありました。

パンデミックの収束には、やはり「ワクチン」でありますが、ソーシャルディスタンスを守ることに言及される賢人もおられ、わが国の秋から始まった感染拡大が、なぜ起こったか、改めて科学的な分析と説明が不可欠であると感じま

した。

ところで、ご承知の通り、同経会は今年十一月に六〇周年を迎えます。60周年を記念して、同志社に学んだ誇りである「新島精神」を深く考え、同経会の皆様とともに喜び合いたいと考えておりました。その一貫として、総会にお招きする講師が決まりました。

「坂田好弘」さん。経済学部のご出身で「世界の坂田さん」に「新島精神」など心行くまでお話しして頂く予定です。国際ラグビーボードに殿堂入りされた「世界の坂田さん」に、ご紹介など不要ですが、あえて「在学中に全日本のメンバーとなられ1968年、ニュージーランド遠征で「世界のサカタ」として名を轟かせられました。去年末には、「ニュージーランド・メリック勳章」を受章されました。

60周年と新島精神そして坂田さんのお話に、わくわく感を持つのは、私だけではないと思います。経済学部へのある種の貢献策も速やかに具体化したいと思っています。委員長会議や理事会などで進めて参ります。

昨年の同経会役員改選で、中島さんが副会長を辞されました。そして新たな役員が誕生致しました。中島さんには長い間有難うございました。今年に、パンデミックが収束することを願い、平安な「時」が訪れることを期待してご挨拶と致します。



## 経済学部長からのご挨拶

経済学部長 角井正幸



2020年度より経済学部長を務めさせていただいております角井です。今年度もよろしくお願い申し上げます。同経会会員の皆さまにおかれましては、平素より経済学部の教育活動ならびに研究活動に多大なるご支援を賜りましてありがとうございます。心より御礼申し上げます。

改めて書くまでもなく、新型コロナウイルスの感染拡大は社会のあらゆる場面に変化をもたらしました。大学もその例に漏れず、教職員はそれまでほとんど実践してこなかったネット配信授業（オンライン授業）の準備に奔走することになり、そしてなによりも学生の皆さんにその対応を求めることになりました。ネット配信

授業にも優れた学習効果を有する側面があり、すべてを否定することはできませんが、学生たちが一所に集い学び合うという面では大きな課題を突きつけられたことは間違いありません。

そのような中で経済学部での学びについて考へるとき、一年次生の「基礎演習」の授業でしばらくの間教材としていた『故事成語でわかる経済学のキーワード』（梶井厚志著 中公新書）のことを思い出します。この本の冒頭で著者は、難解で敬遠されがちな経済学的な考え方や経済学のキーワードを故事成語と結びつけて、格調高くかつ心に残るように解説したいとしています。初年次教育でこの本を教材に用いたのは、大学で始めて本格的に経済学（経済学部での学び）に触れる学生たちに少しでも心理的ハードルを下げてもらいたいという思いからでした。

この少し後に著者は、誕生して300年にも満たない経済学の概念と2000年以上前に成立した故事成語と結びつけることは「無理筋」であるうけれども、「読み進んでいくうちに、経済の仕組みや理屈そのものは、はるか昔から働いていた」ことが理解できるとしています。私たちが経済学部で学ぶ経済の仕組みは、時代によって変化しつつも、ある意味で普遍性を有しています。そして経済活動は、私たちの生活そのものに密接につながっており、働く場や家庭生活のあらゆる場面に「経済活動」がついて

回ります。そこに「経済学部での学び」と「社会」とのつながりを見いだし、「社会」のなかで「経済学部での学び」を活かすことはできないでしょうか。たとえば、経済学部で学んだ学生たちが「経済学のキーワード」を日常用語として使える社会を実現していければ、経済学部での学びがより社会で活きるものとなるはず

です。最後になりましたが、同経会の皆さまのご協力によって「経済学部」と「社会」がつながっています。コロナ禍の中で活動が制限される面も多いかとは思いますが、同経会の活動や同経会報を通じて、経済学部そして経済学部生の「いま」に触れていただければと思います。そして、今後とも社会の中で活躍する先輩として、学生たちへのご助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

新島襄先生の言葉	2
同経会会長からのご挨拶	4
経済学部長からのご挨拶	5
卒業生からの便り	8
教授インタビュー 横井和彦氏	14
委員会便り	19
現役学生の活動紹介	23
特別インタビュー 高木壽一氏	24
現役学生が語るわがゼミ	29
同経会役員名簿	43

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの生活は制約を受け、不自由な日常が続いています。3密（密集、密閉、密接）を避け、手洗いやマスク着用が欠かせない毎日です。

企業においては、テレワークの拡大や時差出勤など働き方に変化が見られます。また内外ともに会食禁止を徹底している企業も多いと聞きます。人との接触を拒むのが、このコロナウイルスの一番やっかいなところです。

今まで当たり前のように楽しんできた仲間との会食、スポーツ観戦、ライブやコンサート、各種イベント、旅行なども自由に参加できる日々が待ち遠しい限りです。

今は家飲みで我慢していますが、足が遠のいている祇園が懐かしく、寂しい思いをしておられる方も私だけではないでしょう。

これにより元の日常に戻れるという訳ではありませんが、予防にはなるでしょう。何よりも安心感が増し、経済社会活動が落ち着くことが期待されます。

同経会の活動も制約を受けた一年でした。本来ならば会報でお伝えすべき各種行事が取りやめとなりましたが、大学関係の方々や会員の皆さまのご協力を得て会報をお届けすることができました。

新しい社会人としてスタートされる卒業生の皆さんに対し、先輩諸氏からの激励や助言も掲載しております。同志社人としての誇りを胸に、元気に明るく第一歩を踏み出してください。

（文・中島信幸《広報委員会》）

同経会では、学部の卒業生にさまざまな情報をリアルタイムで発信していくため、ホームページを運営しております。

2013年12月にホームページを全面的にリニューアル、2014年5月からはスマートフォンやタブレットへも情報提供できるようシステムを構築しました。

そのホームページを維持、更新していくため、バナー広告、同経会サポーターディングカンパニー（同経会SC）広告を出稿してください。法人様個人様を随時募集しております。

つきましては、趣旨にご賛同いただき、引き続き広告掲載を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

広告の掲載要領、広告料金など詳しくは事務局までお問い合わせくださいませ。

お問い合わせ先

京都市上京区今出川通烏丸東入  
同経会事務局

TEL: 075-251-3524

同経会ホームページ  
広告出稿のお願い





# 卒業生からの便り

今不学恐失時



同志社大学

阿部泰士（八田英二ゼミ）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様方の新しい門出に際し、その前途が幸多きことを祈念致します。

私は二〇〇三年三月に同志社大学経済学部を卒業し、その年の四月に同志社大学院経済学研究科に進学致しました。修了後、（勤務を傍らとしながら）他研究科への入学・修了を経



博士学位受領日

て、縁あって、研究開発推進機構特別研究員として母校・同志社大学に奉職しています。皆様方の卒業年度にあたる二〇二〇年度中も今出川校地に入入りしてりましたが、特に春学期中は在学中の方々に対しても入構制限措置が執られていたこともあり、学内は閑散としておりました。その間は、Web会議システムを用いたオンライン教育および研究活動への移行・対処が主な課題となりました。技術的な面も然ることながら、各種法令、特に二〇二〇年四月に前倒しで施行された改正著作権法第三五条の運用に関して細心の注意を払いました。私自身、当初計画していた研究活動の殆どが中止を余儀なくされましたが、一部はオンライン開催という形で実現することが叶いました。尚、この時お力添えをいただいた学内外の研究者の大半は同志社の校友であり、感謝の念に堪えません。

確かにWeb会議システムを用いたミーティングやインターネット配信型授業自体に目新しさはございません（私自身も二〇年前に経済学部で履修致しました）。時を経て、これらはもはや一部の物数寄だけが手にするものでは無く

大学での出会いを大切に



辻・本郷税理士法人

西田憲弘（清川義友ゼミ）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私は、卒業後、会計事務所勤務してきました。社会人になって感じたことは、単に会計・税務に関する技術力が求められるだけでなく、上の役職であればあるほど「人間力」が必要だということだと思います。これは会計業界に限ったことではないと思います。「人間力」を言い換えれば「社会で生きていくための総合的な力」でしょうか。いくつかの要素からなると思いますが、特にコミュニケーション力・お互いを助け合う力が必要だと考えます。



なりました。特に今年ご卒業の皆様方は、件の感染症騒動を機に、最終年度にして否応なしにこれらに対応するスキルを体得されたことと存じます。



ゼミ生集合写真（筆者：経済学部四回生（当時））

同僚とのランチにて



りお祈り致します。

私が新入社員のときは「この新入社員と一緒に仕事をしたい・困ったときは助けてあげたい」と先輩に思ってもらえるように、どんな仕事も嫌がらず真面目に作業をし、相手の気持ちを配慮してきました。新入社員のときに周りへの気配りを意識してきたからこそ、お客様対応をするときも自然と相手の立場・気持ちを配慮することができたと思います。

私が「人間力」を高めるために気を付けたことが二点あります。

第一に、静かな場所で自分自身の言動を振り返ることです。第二に、友人と遊び、相談することです。同志社大学で出会った友人は社会人になってからも交流が続くと思います。皆それぞれの道を歩みますが、だからこそ社会人になってからも遊ぶと多くのことを気付かされます。また、同じような立場での悩みを持っていることが多いので、相談をすると解決の糸口となることもあります。

現在、私は税理士として勤務しておりますが、過去が順風満帆だったとは正直言えません。悩みがあっても乗り越えられたのは、同志社大学で出会った切磋琢磨する仲間の存在があったからです。

皆様が同志社大学での出会いを一生の財産として大切に、益々活躍されますことを心よ



感謝の気持ちを忘れずに



損害保険ジャパン株式会社  
須賀 裕之 (川越修ゼミ)

皆さん、ご卒業おめでとうございます

私は、損害保険ジャパン株式会社に勤務しており、保険の営業部門を担当しております。保険は、事故や災害発生時、大きな悲しみや不安の中にいらっしやるお客様へ、補償を通じて、負担を少しでも和らげ、お客様の生活を陰から支援することに携わり、社会に貢献できるサービスです。

そのサービスは、保険を販売する代理店、営業・保険金サービス部門の社員や、商品開発部



門の社員など、実に多くの人によって支えられています。保険会社に限らず、働くという事は、一人ひとりが、常に何がベストであるかを考え、能力を発揮していくチーム戦なのです。

社会人経験を通じ、アドバイスをお送りするならば、「周囲に感謝をする」ということです。学生時代までは、周囲が用意してくれる環境に置かれ、それを当然と思っているかもしれないですが、それは当たり前のことではなく、自分の時間を削って、皆さんのために用意・指導してくれた人がいるということに、感謝を忘れないで下さい。

仕事以外でも、世の中は、自分の気づかないところで沢山の方が携わり、支えられています。自分一人では、実は何もできません。先人観を持たず、様々なことに興味を持ち、吸収し、意見に耳を傾け、相手の立場に立って物事を考えるようにしてみてください。視野が広がることで、考え方や、選択肢はとて豊かになります。皆さんを取り巻く環境はめまぐるしく変化していきますが、社会を支えているのは沢山の人々であり、チームワークが大切であることは変わりません。そこに必要なのは感謝の心です。ありがとう、と一言添えることで、笑顔が生まれ、円滑な人間関係は、自分の能力×チーム能力として、最大限の効果を発揮することができるのです。

大学時代の4年間と学びの場



株式会社太陽商会  
西木 健 (西岡幹雄ゼミ)

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。私は、2003年4月に野村證券に入社をし、その後は経営管理業務を学ぶために、慶應義塾大学の大学院へ進学しMBA(経営学修士)を取得しました。

MBA取得後は、外資系金融機関で業務に従事して様々な経験を致しました。現在は、親の会社を継承し会社全体の経営管理業務に従事しております。



私の学生生活を思い出すと、ゼミの先生である西岡幹雄先生の「ご指導」や「自由な研究活動の推奨」のおかげで、充実した学生生活を過ごすことができたと思います。

大学2年生の頃から、テレビ東京の経済番組の学生レギュラーとしてテレビ番組で活躍したり、学生主催の金融イベントに参加し投資コンペで優勝したり、企業のインターンをしたりと、毎週のように東京と大阪と京都を走りまわっております。

ゼミ活動では、同志社びわこリトリートセンターでレクリエーションをしたり、他大学と研究内容の発表会をしたりと、また、ゼミ生と飲み会やフットサルをしたりと楽しかった記憶があります。あと、2003年には同志社大学育英賞(学術)で表彰して頂き、また、2004年度の同志社大学の入学案内に経済学部代表で「同志社からの風」で掲載して頂いたのも良い思い出です。

このような大学時代の4年間で学んだ知識や経験は現在の社会人になってからも大きく役立つと思っています。同志社大学は、学問の幅広さや面白さを教えてくれ、学生時代に何よりも大切的な好奇心を満たしてくれるところだと思います。大学時代に学んだことは必ず役に立ち、活躍できる方面も多いと思います。実際、多くの同志社OB・OGの方が様々な分野でご活



私も社会人として歩んだ日々を思い出すと、諸先輩方、同僚、取引先の皆さん、家族に勇気づけられ、支えられていたことを痛感します。最後となりますが、皆さんのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ウォール街の様子



躍されておられます。

今後も自らの学びの姿勢を持ち、考え抜く姿勢を忘れずに日々精進をして参りたいと思います。最後に、大学で熱心にご指導を頂きました先生方をはじめ、学びや遊びを共に分かち合った友人たち、お世話になった多くのみなさまに心より感謝を申し上げます。



## 新社会人の皆さんへ



大丸松坂屋百貨店

村山 哲平 (伊多波良雄ゼミ)

皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。

直近1年間はコロナ禍において、学業や課外活動、就職活動など、様々な制約のなかで取り組まれていたことと思います。

私は2003年4月に株式会社大丸(現・株式会社大丸松坂屋百貨店)に入社し、大丸京都店に配属されました。

役割・職務は2〜3年周期で変わっており、店頭の承り担当から、ショップチーフ、プロ



モーション担当、労働組合専従、営業企画担当、フロアマネジャーを経て、20年9月より現職の本社経営企画室にて戦略担当を担っております。

これまでの経験から、新社会人の皆さんに心構えとして1点お伝え致します。

### 「キャリアについて」

これから社会人として歩まれるなかで、多くの方が企業などの組織に属し、課せられるミッションに取り組んでいかれることと思います。

その役割・業務としては、当然ながらご自身の「好きなこと、したいこと」だけではありません。「苦手なこと、面倒なこと」も多々あるなか、立場・役割が変わるとそれがさらに「個人で完遂できること」から「多くの人を巻き込む必要があること」、「単純なもの」から「複雑なもの」と幅も広がっていきます。

そのなかでまずは、好き嫌いせずその時のミッション一つ一つに向き合って取り組んでみてください。時には役割範囲外の業務も出てくるかもしれませんが、「これは自分の業務ではない」と拒絶するのではなく、トライしてみてください。経験することで知識・人脈など後に自身の財産となるものが得られ、結果、キャリアにつながっていきます。最初のうちは、周りの成長が気になるときもありますが、長い社会



人生活、焦らず目の前のことをひとつずつクリアしていただければと思います。

以上、簡単ですが、皆さんのこれからの活躍を祈念して、私からのメッセージとさせていただきます。

## コロナ禍ニモマケズ



行政書士・社会保険労務士

細川真史 (大野節夫ゼミ)



新型コロナウイルスの蔓延で、卒業生の就職活動には大変な労苦があり、在学生はリモート授業が主流で、大学生活を満喫できないのではないかと案じます。

私は、2003年3月に卒業。当時の日本経済はどん底で大学卒の就職率は55%だったと後に知りました。「超氷河期」と呼ばれた頃は、岩手県盛岡市の高校生だった私は、関東と関西の大学を巡り、絶対にここで学びたいと同志社大学を選びました。

大学生活は、本当に楽しく意義あるものでした。「単位互換制度」を利用して他大学にも通い、葵祭等でのアルバイト、名所旧跡廻りと充実した日々で、今でも大親友である友人も出来ました。しかし、就職は非常に困難。特に岩手出身の私は関西には地縁も知人もなく関東もしかりです。

けれども、実家から千km離れた大学を選び学んだ事の後悔は全くありません。

同大大学院(修士課程)を修了後、東京に転出したのですが、やはり就職は厳しく、派遣社員等を受けながら資格試験を受けました。

現在は、行政書士・社会保険労務士事務所を開業しております。

各種許可申請、社会保険・労働保険手続等が主な業務ですが、コロナ禍による「持続化給付金」「雇用調整助成金」も事業主に代わって申請。法改正等が目まぐるしく絶えず研鑽が必要ですが、顧問先から感謝される事でやりがいを感じ心が満たされます。

百年前も世界中がスペイン風邪でパンデミック禍に襲われています。十年前の東日本大震災、その後も各地で自然災害等が多く発生しました。

後輩の皆さん、私達は、何が起るか分からない世の中に生きなければなりません。どうか、希望を失わず、日々を前向きに捉え、



2019年9月 鞍馬寺にて

生活されますことを祈っております。

同経会報 第87号  
発刊記念  
特別インタビュー

同志社大学経済学部教授  
同志社小学校校長  
同志社大学キリスト教文化センター所長  
博士（経済学）

横井和彦

「社会の医学」 経済学を志す

生まれは愛知県です。子どもの頃から「将来は先生になる」と漠然と決めておりました。

経済学に興味を持ったきっかけは、地元の高校時代、日本史の先生が「経済学は社会の医学、という言葉がある。つまり経済学を学ぶのは社会のお医者さんになることだよ」と教えてくださり「なるほど」と納得したことです。もともと、社会や歴史が好きだったのと、親が警察官だった影響で法学にも興味がありました。双方を学べる大学ということで同志社大学への受験を決め、1989（平成元）年、経済学部に入りました。

ところで私は、幼い頃にキリスト教系の幼稚園に通っていたため、キリスト教になじみはありませんでしたが、受験した当時は、本学がキリスト教系の大学であることを特に意識していたわけではありませんでした。

ところが、大学進学のために京都に引っ越した時のことです。荷物をほどこいてみると、不思議なことに、自分では入れた記憶が全くないのですが、幼稚園の卒園式でいただいた『聖書』がしっかりと入っていたのです。もしかしたら、その時すでに無意識に、自分が後年クリスチャンになることをどこかで予感していたのかもしれない。

はじめての教職員経験

私が入学した89年は、あの有名な「天安門事件」が起きた年でした。「人民解放軍が人民を踏み潰すなんてどういうことだ」と憤ったことが、中国経済に興味を持つきっかけとなりました。ソ連・中国の社会主義体制が崩れるのを目の当たりにして「経済体制とはなんぞや？」と疑問に持ち、島一郎先生のゼミの扉を叩いたのです。

卒業した93（平成5）年は、ちょうどバブルが崩壊した時期にあたります。華やかになりし時代の残り香は漂っていたものの、就職が決まらない同級生も始め、その後長く続く就職氷河期の入り口に差し掛かっていました。

この不穏な状況下で、私はあえて民間企業への就職の道を選ばずに、経済学の勉強を続けつつ、憧れの職業であった教職員免許取得を目指しました。そして卒業後は、大学院に進学する道を選びます。幸いにして指定校推薦で入学しており「成績を落として高校の後輩たちに迷惑をかけてはいけない」というプレッシャーに圧され、真面目に勉強していたおかげで、博士課程（前期課程）に合格することができました。

博士課程（後期課程）に進んだ後、茨木市にある中高一貫校の社会科非常勤講師として教鞭を取りはじめました。ついに、長年の夢だった

教員デビューを果たしたのです。

ところが、私の教えていた「公民」は受験科目ではありませんでした。授業を真剣に聞いてくれる生徒が少なく、居眠りする者や内職している者もちらほら。はじめての教員経験でいきなり胃が痛い思いをしました。憧れの職業についてに就けたという喜びのほうが勝っており、教師という職業に不満を感じたことは一度もありませんでした。

小中高大の一貫教育の成果

大学の教員となって教えることが面白くなった頃のこと「中学、高校では教鞭をとった。つぎは小学校だ」と、大学内の酒席で、周囲に冗談交じりで話していたことが何度かありました。そうしたら、誰かがそのことを伝えたのでしよう。ある日、学長から呼び出されました。「同志社小学校の校長職をお願いしたい」。謹んでお受けしました。驚くとともに、自分はずいぶん、教師という職業に縁が深いのだなあと、感慨もひとしおでした。

同志社小学校の子どもたちは、みな元気です。毎朝、校門に立って生徒一人ひとりに「おはようございます」の挨拶をしてお迎えするのが校長の重要な役割の一つです。その時「じゃんけんをしよう」と言ってきたり、虫かごに入れた昆虫を家から持ってきて見せてくれる子もいた



りして、皆のびのびしているという印象を受けます。特に低学年はとても素直で、讚美歌でも、大きく澁刺とした声で歌ってくれるのが嬉しいですね。

授業では、教科書を板書して記憶させることに終始することはなく、例えば子どもたちがプレゼン発表をして、先生が司会役をするなど、生徒の自主性や独自の発想を重んじたカリキュラムが組まれています。新島襄先生のうたった「自由」の精神が小学校にもすでにしっかり根付いているのです。

このように、ものごとを素直に受け入れられる小学生時代から新島先生やキリスト教の精神の種をまけば、中学、高校でその芽が大きく育ち、自ずと大学生や社会人になってその精神を体現し、周りの仲間には伝えられるような存在として開花するのではないのでしょうか。

2006年に開校した同志社小学校も、今年で創立15年目を迎えます。私が今、大学で受け持っているゼミにも、小学校出身者がいます。いよいよ、小・中・高・大学一貫教育の成果が表れてくる時期になりました。今年50歳になりましたが、70歳の定年までに、あの小さな子どもたちが、どんな大人に育つのか見守ることが、私の教員人生の後半の楽しみとやりがいの一つになりそうです。朝7時半に小学校へ行き、9時の一講目スタートに大学へ滑り込む曜

日があるほど、大学と小学校の掛け持ちは大変です。幸いと言いますか、岩倉と今出川は地下鉄一本でつながっているため、やってできないことはありません(笑)。

### 欲張ってチャレンジすべき

私はスポーツ全般が好きです。体育会所属のゼミ生が、インカレや他校との交流試合に出場すると聞くと、よく観に行つては応援しています。なかでもラクロス部の試合を何度も観に行つていううちに、同部の部長にまで任命されました。教え子たちが外の世界で頑張っている姿を見るとひじょうに嬉しいものがあります。

恩師、鳥一郎先生は、学生と一緒に飲んだり語り合ったりするのが大好きな先生でしたが、私も、こうして学生とのつながりを大事にするところは鳥先生ゆずりなのかもしれません。

学生にとつては、一度きりのせつかくの大学生活となります。所属ゼミでの勉強だけにとどまらず、スポーツ、サークル、アルバイトでも、自分の興味のあることを、掛け持ちしてでも、一所懸命打ち込んでもらいたいと思います。

私自身は現在、経済学部教授、小学校校長、キリスト教文化センターの所長の三役を兼任しています。一つのことを極める生き方も素晴らしいけれど、関心のあることすべてに取り組みながら、それぞれを充実させていく生き方もあ

りなのではないかと思っています。

### 気軽に礼拝を体感してほしい

キリスト教文化センターは、新島先生の精神の中核となる「キリスト教主義」を担う、本学にとつて非常に重要な部署です。

代々、神学部の先生が所長を務められることが多かったのですが、就任依頼のお話があった時は「なぜ経済学部の私に?」と驚きましたが、チャペル・アワーをはじめ、センターの活動によく顔を出していたことから、お声をかけていただけたのかもしれませんが。同志社の肝となる部署の長として、しっかり責任を全うしなければという思いで日々、務めさせていただいています。

チャペル・アワーは今出川キャンパスでは毎週火曜日の夕方5時半、水曜日の10時45分、金曜日の12時35分から開催しており、どなたでも参加することができます。クリスチャンではない学生や、まだセンターに一度も行ったことがないという卒業生の方々にも、キリスト教の一番の真髄である礼拝を体感しに、是非気軽に足を運んでいただけたらなと思います。

### 新島襄に学ぶリーダーシップ論

私自身「教師」「所長」など、人の上に立つ立場に身を置くようになって分かったことがあります。上に立つ者が、人を押さえつけたり強



幼少期からキリスト教精神の種をまけば、自ずとその精神を体現する存在として花開く。  
小中高大一貫教育を通して、そんな学生たちの姿を見届けたい

引に自分の思い通りにしようとするれば、逆に人はついてこないということです。

新島先生は、多くの人々に呼びかけ賛同を得て、同志社大学設立という大事業を成し遂げましたが、先生は決して、権威的なカリスマタイプのリーダーではありませんでした。むしろ、皆の思いを大切にしながら一つにまとめていくような、温和で心優しい人だったようです。新島先生のそうしたあり方が、学生の自主性や多様性を大事にする「同志社らしい」空気感となつて流れ続けているのではないかと思います。

コロナ禍にあつては「自粛警察」など、やり場のないストレスを他の人に向けたり、感染者を必要以上に警戒したり差別したりするような人たちが現れ、世の中がギスギスとしている感じがします。また、人のあり方の多様性の尊重ということが叫ばれ「モラハラ」「パワハラ」など、権威で人を動かそうとする動きに対して、世の中がセンシティブになっていると感じます。そんな今こそ一層、新島先生のような、一人ひとりの声に丁寧に耳を傾け、皆が幸せになれる場をつくっていくリーダーシップが求められていると思います。

### 同経会会員相互の交流を深める

同経会では最近特に、会員同士の交流がさかんになっているようですね。卒業生の皆様が、

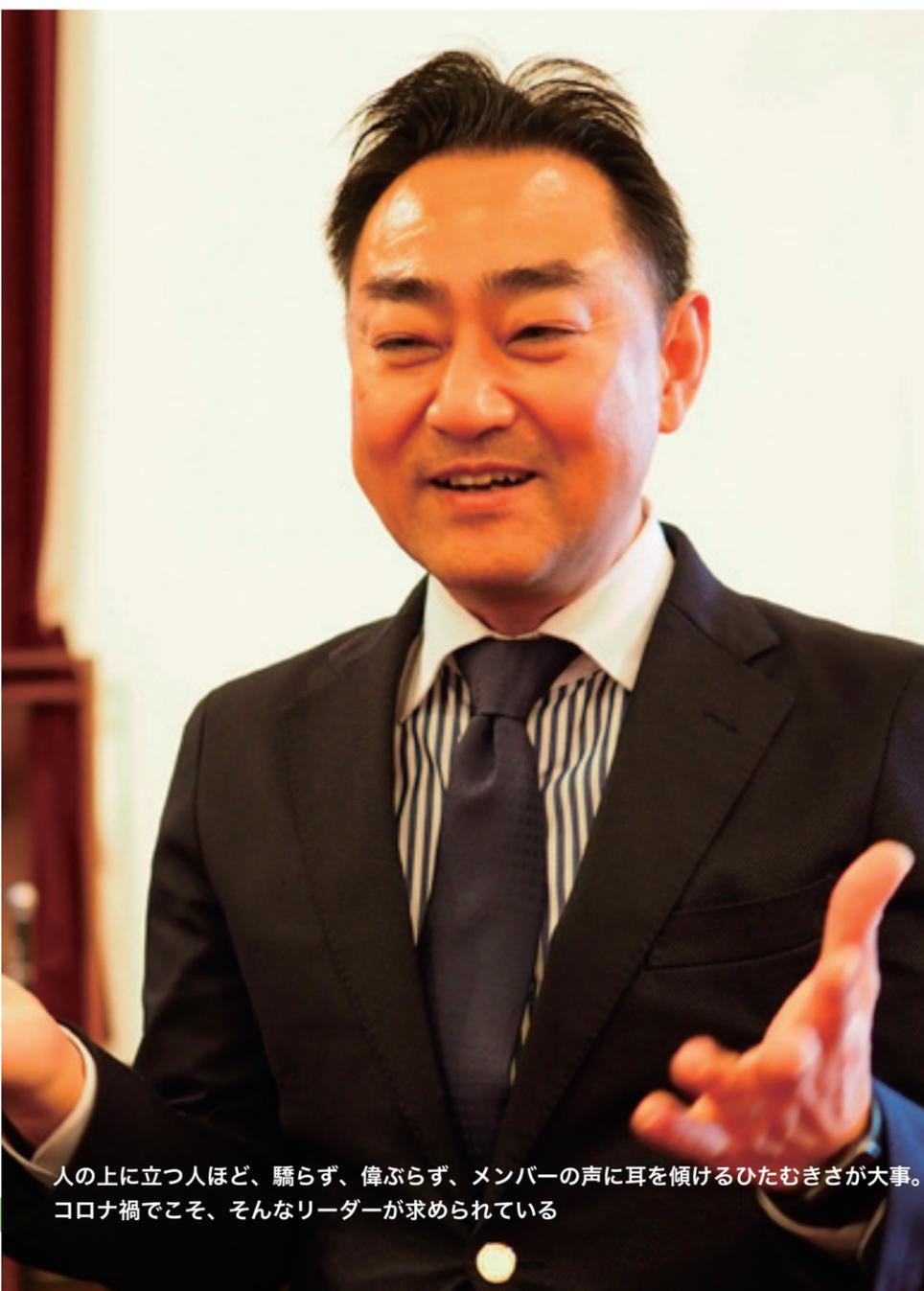
プロフィール…

横井和彦（よこい・かずひこ）

同志社大学経済学部教授。同志社小学校校長。同志社大学キリスト教文化センター所長。博士（経済学）。前学校法人同志社評議員・理事。2011年北京大学歴史学部客員准教授。2012年復旦大学日本研究センター特別招聘学者。ミクロとマクロの両視点から、中国の「社会主義市場経済」の解明をめざし、市場経済化による中国企業、中国都市社会の変容について研究を続けている。

社会の中のさまざまな場面でご活躍されている様子を目にして、とても頼もしく感じています。そうした場に現役の学生を連れていくと、先輩たちの姿に感化されて、自分もがんばりたいとモチベーションを上げてくれるようです。先輩たちをロールモデルとして、むしろ、それを超えるぐらいの存在になりたいというような意欲ある学生たちが育ってほしいと願っています。新島先生そして先輩諸氏の思いが脈々と受け継

がれるこのキャンパスでの学びを通して、他者への思いやりや愛にあふれた、「一国の良心」を身をもって示していける存在に成長してほしいと期待しています。私自身、同経会の一員として、可能な限り活動に尽力していきたいと思えますので、今後とも同経会へのお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



人の上に立つ人ほど、驕らず、偉ぶらず、メンバーの声に耳を傾けるひたむきさが大事。コロナ禍でこそ、そんなリーダーが求められている

## 同経会委員会だより

Letters from Various committees

### 総務

総務委員長の河合一郎です。同経会では毎年3月21日経済学部の卒業式当日に、卒業生の皆さんに各ゼミを通じて同経会ご入会のおしおりと同志社大学ロゴの入った記念品をお渡ししています。以前は同経会のロゴマークの入った名刺入れやスプーン、近年はクラーク館など写真の入ったクリアファイルです。ささやかな所作ですが、大半の卒業生にとって経済学部OB会の存在を知る初めての大事な機会となります。

また同日今出川キャンパスの一室にて、経済学部卒業生の成績優秀者トップ5名に「同経会賞」の授与を行っています。ご家族と経済学部長ご列席の中、同経会会長より激励のお話とともに表彰状及び記念品の懐中時計が贈られます。1978年の初回から今年で44回目、受賞者は計221名になりました。

同経会報2020年春号の西窪さんや曾我さんなどのように、社会人になって同経会報に寄稿してくれる卒業生も多く、受賞を誇りに励んでおられる姿がとても印象的です。

今後さらに会員各位のお力添えをいただきながら、これらのイベントに加えて若い人達がより惹かれつづえるポータル形成を思案して参ります。

## 総務 (卒業生の会)

総務担当の近藤和夫です。当委員会は主に「卒業生つどいの会」の企画・運営を担当しています。会員の方々に一人でも多く参加していただくために毎年知恵を絞っています。特に講演講師の選定には腐心しています。著名な方、その時々々の政治経済問題を解説していただくのに対応しい方、同志社大学の先生方またはOB・OGの方を念頭に置いてお招きしています。今年は7月10日に開催予定で60周年記念ということもあり講師は同志社大学OBでラグビーの「世界の坂田」と言われる坂田好弘氏にお願いしています。過去には日本銀行白川前総裁、同福井元総裁、裏千家千玄室大宗匠、同志社大学内藤教授、民俗学の八木先生、「京都ざらい」の井上先生をお招き致しました。

コロナ感染がなかなか収束しない現状今年の開催も必ずしも樂觀視できないものがあります。が、今後とも「つどいの会」の充実に務めますので、皆様のご参加をお願い致します。

## 東京

東京担当の高橋健治と申します。同経会の「東京のつどい」は2002年の第1回から2019年に第18回を開催、2020年はコ



東京のつどい会場の様子

ロナの影響で中止としました。2021年は、ぜひ開催したいと願っています。会場は、内幸町の「日本プレスセンター」10階ホールです。小生は、2005年にゼミの同期生に勧められて初参加しました。それ以来、毎回参加し、楽しんでいきます。

「東京のつどい」に参加して良かった点は、当然ながら同窓の友人が増えたことです。我々は首都圏にある大学の卒業生と違い、「東京には

は同志社大学研究の第一人者でいらつしやる神学部教授の本井康博氏、第2回以降は同志社校友会会長でダイキン工業株式会社代表取締役会長の井上礼之氏、南都銀行会長の西口廣宗氏、社団法人日本ホテル協会会長でグランドハイ

アット東京代表取締役社長の大橋寛治氏、楽天株式会社常務執行役員の高橋理人氏、日本ペイントホールディングス株式会社代表取締役社長の田堂哲志氏、不二製油グループ本社株式会社代表取締役社長の清水洋史氏、マルハニチロ株式会社代表取締役社長の伊藤滋氏、株式会社ダイフク代表取締役社長の下代博氏を講師にお迎えして開催し、其々好評を博しました。

このほか、「同志社大阪ビジネス交流会」を企画し、イベントとして名刺交換会を開催するなどビジネスの芽を育む取り組みを行っています。

まずはご参加ください。そして先輩や後輩たちと楽しみましょう。

## 名古屋

名古屋プロジェクト担当の萱原昇です。同経会・卒業生つどいの会、京都は兎も角として、大阪、東京では開催されている。何故、名古屋では開催されていないのか？日本の総輸出額の20%近くを占める日本のものづくり基地とも

言える東海地域を控えながら…。この思いを原点に、本部の支援を得て、第一回を開催したのが令和元年6月15日。その顛末は2019年同経会報に投稿した通りです。

昨年6月に開催すべく準備を進めておりましたが、案内状を出す段階で、コロナ禍が徐々に拡大、結局は断念するに至りました。本年も予断を許しません。開催は予定します。

名古屋プロジェクトは愛知、岐阜、三重に加えて静岡の一部を対象とします。広範な地域です。遠方から参加する校友のモチベーションをどうするか？これが大きなチャレンジです。人的ネットワークを必要とする若い世代、管理者・経営層にいるミドル世代、様々な経験を持たれたシニア世代、幅広い各世代に参加戴くために、講演会の内容を充実し、ビジネスにも役立つ交流の場を提供し、同経会の「絆」を実感出来る集い、がその解だと思えます。会員の増加も図れるでしょう。名古屋プロジェクトの基本理念はここにあります。

## 企画・支援 (海外インターンシッププロジェクト)

海外インターンシッププロジェクト担当の荒木勇です。2007年に始まった海外インターンシップ事業は、延べ63社に82名の学生が参加しました。この事業は、学生に海外で活躍

同窓生が比較的少ない」というハンディがあります。しかし、「東京のつどい」に参加したお蔭で多くの同窓生と知り合い、仲間意識を持つことができ、異業種の人も知り合うことができました。これは、「東京のつどい」の大きなメリットと言えるでしょう。

講演は、経済に限らず様々な分野の方にお願ひしています。初めて聞く話、業務に参考となる話も聞けます。そして、懇親会では、最後に「カレッジ・ソング」を参加者全員で肩を組んで合唱します。それが明日への活力にもなっているようです。ぜひ、若い人たちに、「東京のつどい」への参加をお勧めします。

## 大阪

大阪プロジェクト担当の土橋純二郎です。同経会大阪は、播島幹長顧問ご指導のもと小川佳秀氏を初代委員長として2008年に誕生しました。大阪は、そもそも同志社大学創立の予定地と位置づけられていたことや卒業生を最も多く輩出している地であることを考えると、この誕生にはとても意義深いものを感じます。

主な活動としては毎年1回、「同経会大阪のつどい」を開催しています。内容は、本学経済学部出身で世界を舞台に活躍されている経済人などの講師による講演会と懇親会です。第1回

海外インターンシップ派遣学生の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
企業数	2	3	3	4	3	3	4	5	7	7	8	9	5	63
学生数	4	6	5	6	4	4	5	6	9	10	9	9	5	82

(単位：社、名)

する企業を肌で感じてもらう機会を与えらるるもに、企業にも、『同志社にも、素晴らしい人材がいる』と知ってもらおう事目的としていました。

もちろん、さまざまな考え方、さまざまな能力の学生がいるため、迷惑をかけたのも事実です。毎回結果報告会を開いていたが、事業が始まったところは、残念ながら観光案内のような報告もありました。

最近では、学部事務局のご尽力により、この事業も広く知られることとなり、この事業に協力していただける企業も増え、優秀な学生を送り込むことができるようになったのではないかと思います。

海外インターシッピング事業で一番大変なのは、受入企業の現地の皆さんである。通常の業務に加え、学生のお世話しなければなりません。何度、学生に「お客さんになったらいけないよ」と言った事でしょう。はつきり言って邪魔な事もあったのではないのでしょうか。それを乗り越えて、受け入れを続けてくれる企業があることは飲水思源の思いです。

昨年、今年と、コロナ禍で中止を余儀なくされています。現下の情勢では、この事業が再開できる見込みは残念ながらありません。今は、ワクチンに一縷の望みを託していますが、昔大流行したスペイン風邪だって足掛け4年で

終息しましたので、いつかはよい方向に向かうでしょう。また、大学生にいろんな機会を提供できることを心から望みます。

### 企画・支援 (企画プロジェクト)



この度企画プロジェクト担当、支援委員長を拝命しました中村恭俊と申します。平成20年より同経会の理事を名ばかりでつとめておりましたのにこの様な重責を与えられ面食らっております。

## 現役学生の活動紹介

経済学部3年生・高永雅人さん(写真中央)、福原壮太(右)さん、商学部3年生上田雄太(左)さんの三名は、昨年夏、布マスクの製造販売を開始した。「京都では友禅染などで、引き染め」という方法が用いられます。私達のマスクは柿



渋という染料を使い全行程をハンドメイドした特注品です」とはリーダーの高永さん。柿渋は、青いうちに収穫した渋柿を搾汁し発酵熟成させたものであり、京都では古来、この柿渋を染料、あるいは万能民間薬として使ってきた伝統があった。抗菌作用もある。ただ、その職人さんはほとんどおらず、一軒ずつ当たってやつの思いで見つけ、製造販売にこぎ着けた。

彼ら突き動かしたのは何か。それは京都という町の役に立ちたいという純粋な思いであった。昨年2月、コロナ禍の猛威が彼らのバイト先の飲食業にも影響し、シフトが減らされバイト代が大きく激減した。自身のこともさることながら「このままでは京都が危ない、経済を上向きにさせる需要はないか」と暗中模索するなか、まずは自分達でできることからスタートさせようとの思いで三人が結集したのが、昨年4月。そこから三ヶ月でブランドを立ち上げ販売にこぎ着けられたのは、学生ならではの情熱と行動力の賜物と言えよう。

フリーサイズ、色は茶と黒で、定価は2000円+税。すでに400個ほど販売できたという。販路はSNSなどネットでス

さて当委員会で考えておりますのは大風呂敷を広げますならば「アカデミアとビジネス界との架け橋になる」であります。そしてキーワードは「特有性」「多様性」「融合」と考えております。例えば京都は言わずもがな歴史と伝統の街であります。100年以上続く老舗企業出現率が日本一であり、老舗社数も第4位という特有性があります。一方で今、大学が旗を振っておられるのがアントレプレナー支援、アントレプレナーシップの醸成であります。この新旧が融合した何かができないでしょうか？学部内には経済学の研究に励む学生もおればインカレ等の大会で戦っているアスリートもあり、サイエンス・自然科学・人文科学という分野に興味を持った多様な学生もおります。彼らが融合して新たな化学反応をおこすお手伝いを同経会の誇る「人材」の叡智を目一杯お借りして魅力あるものを作ります。「わいわいガヤガヤ」した企画の実現に一丁噛んで頂きどうかお力をお貸しください！



ターゲットしたが、彼らの理念に賛同する企業が増え、有名小売業などのリアル店舗での販売も伸びつつある。「同経会会員の皆様の店舗に置いてもらえたら嬉しいです(同)」と経済学部OB諸氏への期待に胸もふくらむ。問い合わせはメールもしくは携帯080・7843・8268まで。(文・広報委員会)



昭和39年卒業

# 特別インタビュー

同経会理事  
元京都市副市長



# 高木 一 壽

たか

き

かず

## 船岡山の近くで育つ

私は京都生まれ。小学校3年生まで、船岡山の南側に住んでいました。その後北大路堀川の近くに移りました。当時は道路が舗装されておらず、バスもまだ走っていませんでしたので、子どもの頃は堀川通が遊び場でした。

小学校は紫野小学校です。そこから旭丘中学校に進学したのですが、いわゆる「旭丘中学校事件」の影響で、一時は学校が分裂。旭丘中学校で授業が続けられる一方で、(同校の教育方針を問題視する)京都市教育委員会が岡崎の京都市勤業館で補習授業を始めました。大部分の生徒が勤業館に行きましたが、自分はいく加減なので、両方の授業に行ったり来たりしていました。勤業館の補習授業の方に行くときには、観光バスに乗って行くことができたのです。

その後、紫野高校に進学、そこから同志社大学に入りました。京都ですと暮らしていたので、大学ぐらいは大阪に行こうと考えたのですが、残念ながら浪人することになってしまいました。浪人中に勉強が嫌になり、ほとんど遊んでばかりいたのですが、「同志社だったら、何とかなるんじゃないか」という周囲の失礼なアドバイスに従い無事同志社大学に入学できました。

## ESSと小野ヤミの中心

入学したのは1960年、いわゆる「60年安保」の影響で、同志社でも学生運動が激しく、校舎や教室の入口がバリケードで封鎖されていたため、1〜2年生の時は授業がほとんどありませんでした。

そんな中、私は「同志社に来たのだから英語ぐらいやろう」と考えてESSに入部。当時、部員は大変に多く、トータルで1500人ぐらい。100人ぐらいの部員から成るグループが15ほどで構成されていました。授業が行われておらず、教室が空いていたので活発に活動することができましたね。

1年ほどはESSでいろいろなコンテストに参加したり、先輩に英語を習いながら活動していたのですが、2回生になって自分にどの程度英語の実力があるのか知りたいと考え、京都アメリカ文化センターに行きました。ところが、センターで使われていた英語は、ESSで学んでいたものと全然違い、何を話しているのかわからない。これではだめだと考え、アメリカ文化センターで英語の「武者修行」をさせてもらうことにしました。センターでは模擬国連などの活動が行われており、大変面白く、勉強になりました。しばらくはセンターの活動に専念しましたが、「他流試合」を経験したことで自信が

つきましたね。

ところが、ESSに戻ると、今度はセンターで身につけた英語がESSのメンバーに通用し難くなっていた。3年生になり、グループのリーダーを務めるようになっていたので、メンバーに「英語は必ず役に立つ。いい加減にやるなら、出てこなくてもいい」と言い渡し、運動部なみの厳しさにしました。メンバーでも泣かせたこともありました。

また、3回生になると、学生運動も一段落。ゼミも始まり、私は小野高治先生のゼミに入りました。小野先生はクリスチャンで、優しい先生だったこともあり、気楽で和気あいあいとした雰囲気でのゼミでした。先生は勉強以外の話もよくしてくださいました。そんな雰囲気の中、私は外国と関係のあることについて勉強したいと考え、ECC(欧州経済共同体。ECの前身)を研究テーマにすることにしました。小野先生は当時ECCに関心がありませんでした。小野先生が、後年、同窓会でお目にかかり、「あの時は変わった研究テーマを選ばなあと思っていたが、考えてみたら、君はなかなか先見の明があった」と、その時になってようやく評価されました。

## 市役所に入庁、外事課へ

当初、就職はしないつもりでした。自分が経



仕事は難しいほど面白いし、誰にでもできる仕事は面白くない——

れていた頃だったので、業務は結構多かった。「第5回日米貿易経済合同委員会」が京都で開催されたのですが、そのような大きな催しがあった時は特に忙しかったです。

外事課では6年ほど働いたのですが、係長と喧嘩して飛び出してしまいました。自分はずっと「一匹狼」で、職場ではどの派閥にも続さなかったし、夜に英会話塾を経営していたこともあり、残業もしなかったのです。

### 堀場雅夫さんの出会い

その後、短期間ですが厚生課に配属。それから、中小企業指導所に配属されました。経済学部の出身だから経済畑の仕事には明るいのは、と思われたようで、これ以降は産業振興関係の業務を中心に担当することになりました。

しかし、実際の産業振興の仕事は、教科書で学んだようなものとは全く違う。誰が困っているのか、何が 필요한のか、自分で知って自分は何をするか考えなくてはなりません。

また、最初は中小企業への経営者への支援やアドバイスを中心に行っていましたが、下請け企業のトップには大きな企業がありますし、大企業の経営者はまち全体に大きな影響力を有している。何か行う時は京都の経済界のリーダーたちのアドバイスが必要なので、経済界のトップや大学の先生方とも親しく付き合うようにな

りました。単に経済政策だけを行っていればよいのではなく、多くの人に話を通じるようになっておくのが大切だったのです。

多くの経済関係者とお付き合いしましたが、大変お世話になったのは（株）堀場製作所創業者の堀場雅夫さんで、アドバイスをたくさんいただきました。堀場さんの「哲学」は「おもしろおかしく」、「深刻に考えたらあかん」。仕事もおもしろく取り組めないといけないという考えの人で、堀場さんの「哲学」に救われたことが何度もあります。

堀場さん以外にも多くの企業経営者の皆さんに様々なことを教えていただきました。皆さん、いろいろ話してくださいまし、聞いているだけでだけで学ぶことができました。

### 信頼関係を築いて情報をとる

1980年代に古都税（古都保存協力税）をめぐり、京都市と京都仏教会が対立。私は広報課長としてその紛争の真っ只中にいました。仏教会とは完全に断交状態で、何も情報が入って来ず、京都市として全く手の打ちようのない事態でした。

そのような中で、私は新聞記者と信頼関係を築き、記者から京都市側と仏教会側、両方の情報を得て市長や助役に提供し続けました。何かあると助役が私の席までやって来ることもあり

営していた英語塾が大きくなっており、どこに就職してもその収入が確保できそうになかったからです。しかし、母親が「きちんとした仕事についてほしい」と泣きつき、市役所の応募用紙まで入手して一次試験を受けるはめになりました。

その後、卒業旅行に出かけていたところ、一次試験に無事合格しているから、面接のためにすぐ帰ってきてくれという電報を旅行先で受け取りました。面接は楽しかったですよ。面接官に愛読書は何かと尋ねられたので、「聖書」と答えたら静まり返っていました。ちなみに、その頃、市役所では立命館法学部出身者が多く、同志社経済学部出身者は大変に珍しかったようです。

最初の配属先は、外事課です。最終面接の時に市長（高山義三市長・当時）から何が得意か聞かれて、「英語ぐらいしかできない」と答えたのが反映されたんでしょうね。市長は「名物市長」とも言うべき人で、国にもかなり顔の利く人。京都駅に新幹線が止まるようになったのも、国際会議場ができたのも、この市長のおかげです。

外事課での主な業務は、市長の通訳や、姉妹都市など外国との文書のやり取り、市の外交文書の作成、外国からの来訪者の受け入れなど。外交的な市長でしたし、姉妹都市の提携も結ば

ました。仕事は難しかったけれど、面白かったですね。仕事は難しいほど面白いし、誰にでも出来る仕事は面白くないですよ。

### 企画監として副市長として

企画監の仕事は特定の課題解決のために特別におかれるポストで私の場合は京都市と仏教会の和解をお膳立てすることでした。部下は全く単独で行う業務で極めて特殊なものでした。

この時代に、（当時京セラの社長だった）稲盛和夫さんに間に入ってもらって、京都市と仏教会の和解を実現しました。ちなみに、和解の「お膳立て」は、全て自分一人で行いました。複数のメンバーでやると、情報が外に漏れてしまいかもしれないし、反対する人が出てくるかもしれないと考えたからです。

京都仏教会にも、先方が音を上げるまで通い詰めました。現在も京都仏教会の理事長を務める有馬頼底さんが仏教会のトップでしたが、有馬さんはこちらを信用してくれさえすれば話が通じる人。京都市と仏教会との対立を治めたことに関しては大変に感謝していただきました。対立は起こりましたが、あんな状態は誰も求めていなかったわけですし、京都市も仏教会も、どちらも治められるなら治めたいと思っていたはず。双方に一番良い落としどころを見つ



けるのが、私の仕事でした。そして私の背後には産業界あったのです。

その後副市長を拝命。副市長としての仕事は、それまで市役所で担当していた仕事とは大きく異なりました。部や課の長の場合は、自分の部署のことだけを考えればよいのですが、副市長の場合、全体のことを考えながら各部分についての最善の策を考えないといけないので、そこが新たな挑戦でした。やりがいのあるそして楽しめる仕事でした。

市役所を退職した後、京都市国際交流会館の館長を勤めました。ここでは政策的な判断を要することは減多にありません。日常業務が中心で退屈していたので、「英語カフェ」を自分で始めました。週に1回3ヶ月ほど終わる、海外旅行に役に立つ程度の英語を笑い話を交えながら教えていたのですが、結構評判になりました。定員15人程度でしたが、多いときには200人ぐらいの応募がありました。

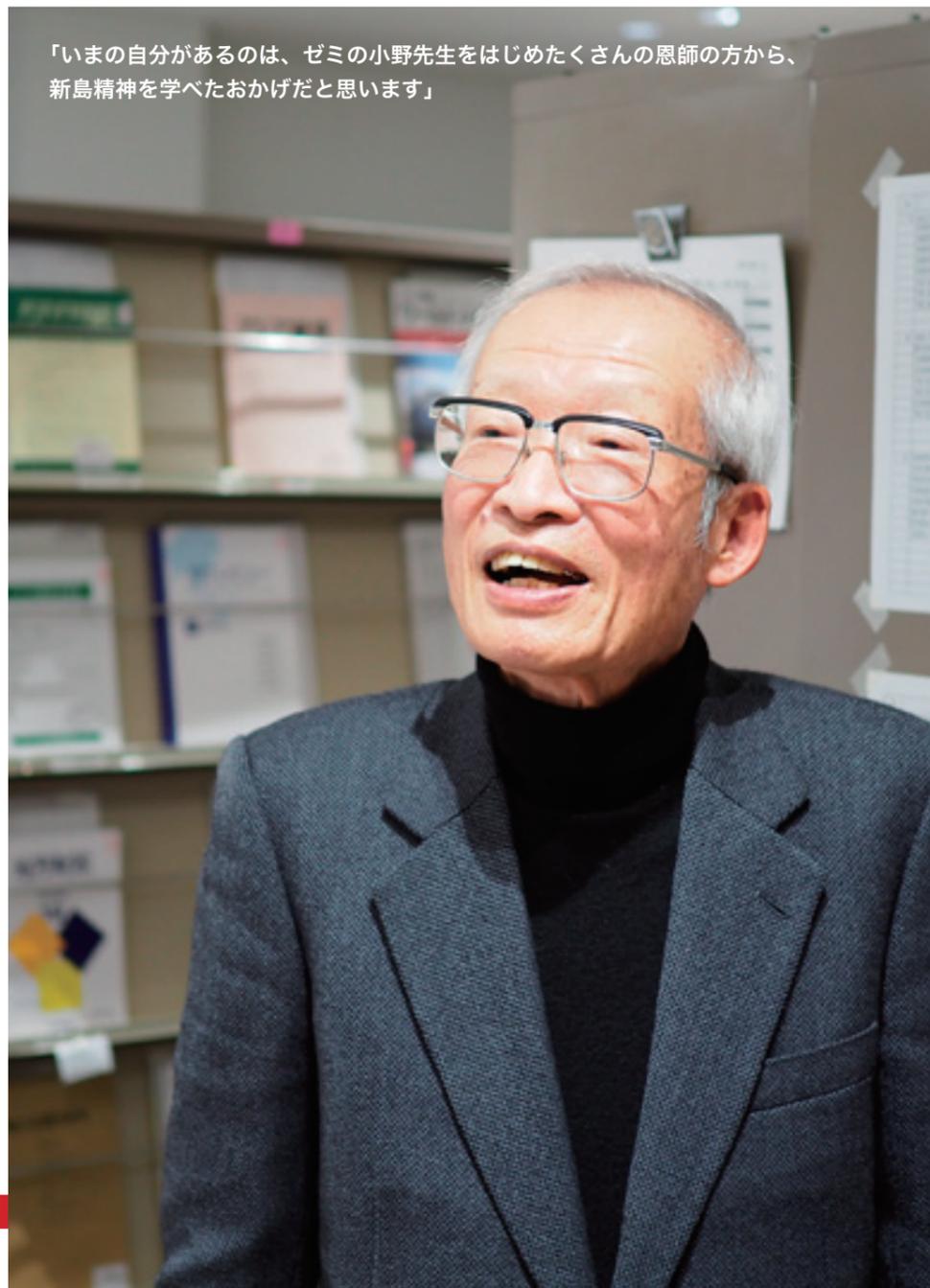
後輩に伝えたいのは、繰り返しになりますが自分の信念に従って行動するということです。自分の信念に照らして正しいか、間違っていないか、それを毎朝確認してから業務に携わることです。

その上で、仕事は楽しく取り組むことが重要です。自分の人生を楽しむことができるように、「苦勞」を「苦勞」だと思わず、苦勞をこそ楽

しむのです。仕事が面白くないなら、面白くすればいい。そうしないと、人生が勿体ないです。自分がこのような人間になれたのは、ゼミの小野先生と、先生から教わった新島精神のおかげだと思います。いつの間にか、キャンパスで身に着いたのでしょうかね。同志社大学とはそういうところなのです。

高木壽一（たかぎ・ひさかず）  
昭和39年同志社大学経済学部卒業。現在は妻と二人暮らし。娘が二人、共に京都在住であり、時々孫を連れての訪問を楽しむ。趣味はゴルフ、音楽、読書。ゴルフは週1回程度、健康維持が目的。音楽は毎月京都市交響楽団の演奏会を楽しむ。読書は特別な分野はなくほぼ手当たり次第という乱読が面白く止められない。

「いまの自分があるのは、ゼミの小野先生をはじめたくさんの恩師の方から、新島精神を学べたおかげだと思います」



## 大学と経済学部のひろば 現役の学生が語る 「わがゼミ」

### ■荒渡良ゼミ

文・横山 球志

「ゼミ内での発言に対して否定から入ってはならない」それが私たち荒渡ゼミの唯一の決まり事です。この決まり事は私たちを甘やかすためのものではありません。他人の発言の悪い点を指摘するのではなく、その人の発言を受け止め新しい議論に発展させるということは、否定することよりもエネルギーが必要です。

そんな私たちが荒渡先生から教えを受けているのはマクロ経済理論です。マクロ経済学の基礎的な理論や、発展的なモデル・社会問題を学んでいます。加えて、2021年度のISF(日本政策学生会議)に向けての研究資料の収集と報告や、中小企業の経営者の方々と交えたウェブセミナー(10年後の経営を考える会)を開催して社会に目を向ける、等々と課外での活動も積極的に行っています。これらの授業・活動を通じて、経済学部生が身につけるべき分析視覚を日々磨いています。OB・OGの皆様

に誇れる活動成果を報告出来るよう、来年度もゼミ生一同勉学に励みます。



### ■船橋恒裕ゼミ

文・平塚ひと美

私たち船橋ゼミは福祉経済をテーマに研究を行っています。今年度は、昨年学んだ出生率の低下や社会保障費の増加など、少子高齢化に伴って生じる問題から、各人がさらに興味を持った分野について研究を行いました。春学期はコロナ禍で対面授業を行えませんでした。秋学期は対面授業を行えたので、ゼミ内で個人若しくはグループで研究を行い、発表をしました。ゼミ生一人ひとりの個性溢れる内容に刺激を受け、卒業論文の構想を固められつつあります。発表後は、船橋先生からフィードバックをいただき、さらに福祉経済について理解を深められました。

これからますます、福祉経済への関心・需要は高まっています。日々変化の激しい毎日ですが、現在の状況を正しく理解し、多角的な視点を持つ人間になれるよう、今後も研究に励んでいきます。



末筆ながら、先輩方の更なる活躍をお祈り申し上げます。

### 伊多波良雄ゼミ

文・奥村勤仁

こんにちは。伊多波ゼミ34期生です。私たちは、公共経済学をテーマに現在22名で学んでいます。

2年生時では、地方の財政や税の仕組みについての本の読み込みを行いました。3年生時では研修旅行の中止、イベント大会も中止、同窓会も中止となかなか思うような活動はできませんでした。

そんな中、主な活動としてはWEST論文大会の出場が挙げられます。結果は振るいませんでしたが、対面で会う機会が限られた中で数万字の論文を各班がなんとか上げる事ができました。

そして今年度は、伊多波ゼミとして最後のゼミ生募集の年でもありました。後輩の活躍にも期待しています！

OB・OGの皆さま、日頃よりご支援いただきましてありがとうございます。これからご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



### 笠井高人ゼミ

文・負野奈美

今年度からスタートしたばかりの笠井ゼミでは主に経済思想史について学びます。学生は5名と少人数のため2・3回生は一緒に学んでおり、学年を超えた意見交流が刺激になります。

春学期は英語のテキストで経済学の歴史について学びました。毎週約3000語の英文を読み込み、英語を活用する力を身に付けました。秋学期は行動経済学のナッジについて学び、それと並行して個々の研究テーマに沿って学習を進めました。来年度は各々の研究を更に進め、卒業論文に取り組み予定です。学生の関心に基づいて学べ、一人一人発言しやすい環境なので、能動的に学問に励んでいます。今年度は例年と異なる状況ですが、先生は面談などを設け学生のサポートをしてくださり安心して取り組みました。秋学期は対面とオンラインを交えつつ、感染予防をしながら授業をしています。

このような状況でも学べる事に感謝し、今後も精進していきます。今後とも笠井ゼミをよろしくお願致します。



### 河島伸子ゼミ

文・増田理乃

こんにちは。河島ゼミは、文化経済学をテーマに研究しています。2020年度の3回生はゲーム、ファッション、ジャーナリズム、映画、音楽の5班に分かれ、1年間、それぞれの班が文化経済の視点を通して研究しています。単に研究するだけではなく、得られた成果はグループ発表という形で他の班と共有され、異なる分野の意見も受け取り、多様な考えを身につけています。

さらに、個人発表の場が設けられており、ゼミ生個人が調べたい事柄についても研究することが出来ます。様々な「文化」にまつわる発表は、一人一人の個性が発揮されており、その新鮮な内容はゼミ生同士を互いに刺激し合っています。

班活動と個人活動を両立して研究が出来たことで、多面的な思考力を培えました。

それぞれの個性を活かして活動することが出来る自由なゼミです。今後も充実したゼミ生活を送れるようにしたいと思います。



### 岸基史ゼミ

文・朝日奈耕太

経済社会と自然との関わりについて、経済理論を座学とフィールドワークにおける実践を通じて理解を深め「持続可能な経済社会を築くために、何をどうすればよいのだろうか」をSDGsと絡めて、研究しています。奈良県生駒市にある同志社大学里山きゃんぱすに毎週日曜日に集まって実際に里山保全活動を行い、その一環でできた作物で商品を作り、販売しています。また収穫祭や七草粥などのイベントも開催していて、地域の方や子どもたちとの交流を深めています。ゼミ全体でのイベントも多いので、他のゼミに比べて上回生やOBの方々とのつながりが強いです。ゼミ生は東北出身者から九州出身者まで様々な学生が集まっていて、新鮮な雰囲気です。毎週日曜日の活動は誰でも参加可能なので気になった方はインスタグラムのDMにてご連絡ください。活動内容の詳細はブログに毎週アップしているのぜひご覧ください。

ブログ  
https://kiszemi.hatenablog.com/  
Instagram  
https://www.instagram.com/doshihakishizemi/



### 北坂真一ゼミ

文・杉森信之

こんにちは、北坂ゼミの3回生、杉森信之と申します。私たちのゼミ活動について話すわけですが、コロナ禍の影響により、春学期は大学に集まる活動はできませんでした。ですが、ゼミでチームズを立ち上げて先生に相談するなどして活動していました。このゼミのテーマはあつめたデータを利用して帰分析で、主にviewsというソフトを利用して行っていますが、なかなか苦戦しています。それでも何かにチャレンジしてみようと、私を含めたゼミのメンバー三人ほどでWeb論文大会という論文大会に出場させていただきました。結果は残念ながら予選落ちでしたが、いい経験になったと思います。

春学期は家から大学のサーバーにアクセスしてソフトを動かしていたわけですが、こうしてみるとまだ20代なのに便利な時代になったなあとしみじみと感じました。秋学期からは大学での授業が可能となり写真のように集まって活動ができるようになり、これからも勉強に励んでいこうと思います。



### 小橋晶ゼミ

文・堀口日向

私たち小橋ゼミは、現在、2回生17名、3回生18名、4回生20名で活動しています。2020年度はコロナの影響によって制限された状況で活動することになり、Zoomを用いてグループワークを行うこともありました。3回生は現代社会における経済学的な分析、教科書作成、コロナ禍、コロナ後の社会におけるビジネスプランなどに取り組みました。活動内容はゼミ生で話し合っ決めてきました。どの活動もグループで活動することが多く、主体的に協力しあって取り組めたと思います。2回生が新たに入ってから、週に1回は2、3回生合同でゼミを行っていました。ここでは経済学用語を紙芝居風に説明し発表するなど経済学を楽しく学べるような授業を行いました。その他、授業以外では、毎年のように合宿を行ったりは出来なかったものの、鴨川を散歩したり、ズーム飲みをしたりなど親睦を深めました。自分たちで考え、積極的に行動していくことを私たち小橋ゼミは大切にしています。今後も自主性を大切に、充実したゼミ活動を行っていききたいと思います。

### 小林千春ゼミ

文・乾行成

小林ゼミでは「日本の企業・産業に関する経済分析」というテーマの下、様々な活動を行っております。2年生の秋にはキャンパスベンチャーグランプリ大阪に参加し、3チームがセミファイナルに進むことができました。しかし、3年生の春に応募した販促コンペでは残念ながら書類選考を通過することができず、秋恒例の経済学部・経済学会主催のディベート大会は今年度中止となりました。代わりにディベートはゼミ内や竹廣ゼミ、北川ゼミと協力し合って取り組みました。その他に全世界企業の財務データを取り扱ったOSIRSなどをを用いたデータ分析についても学んでおります。

今年は例年とは異なるイレギュラーな事態が多くありましたが、その都度ゼミ生で協力し合い、先生や先輩方からサポートをいただいた事で、乗り越えることができましたと感じております。今後も、ゼミ生一丸となってゼミ活動に全力で取り組みます。



### 小藤弘樹ゼミ

文・島添有規子

私たち小藤ゼミは、新たに2年生7名を迎えた総勢21名で活動しています。2年次の秋学期は西村和雄・八木尚志著「経済学ベーシックゼミナール」を選択し論読しています。そしてそこで学んだ内容を活かし、実際の時事問題に当てはめて考え、発表や議論も行っています。また11月には法政大学経営学部の福島ゼミとで合同ゼミを行いました。春学期、3年生はオンライン上で準備をして、論文の執筆や発表のプレゼンテーション資料を作成しました。例年とは違いオンラインでの開催となりましたが、異なる学部だからこそ出てくる別の意見や専門外の知識を得ることができました。



4年次には合同ゼミの経験を活かし卒業論文を執筆します。小藤ゼミでは学年の垣根を越えて活動しており、上級生が下級生のゼミに参加して議論したり教えたりもします。学年間での交流も盛んなゼミで、日々新しい発見や知識を得ることができます。

### 久保徳次郎ゼミ

文・林田翔太郎

私たちの久保ゼミは現在、3回生19人のメンバーで活動しています。ゼミの授業では金融市場における様々な取引について基礎事項から学習し、各取引の特徴やリスクヘッジの取り方や金利裁定に関する経済的な正当性などについて多視点から研究しています。また、関連科目の授業では為替レートの変動というトピックを中心に、外国為替市場における安定条件であるマーション・ラーナ条件について経済学的視点や、時には数学的視点から探求しています。その他にも卒業論文に向けての適切な論文の執筆方法についてご指導を受けながら学習しています。ゼミ内の活動だけではなく、コロナ禍という厳しい状況の中、就職活動も並行して行っているメンバーもいます。仲間同士でエントリートメントの添削や面接対策などを行い、ゼミで学習した知識を活用しながら卒業後に広いシーンで活躍できるように日々努力しています。



### 宮崎耕ゼミ

文・宮田麗史

創設25周年となる宮崎ゼミは24期生25名を迎え、総勢78名で今年も精力的に活動しております。24期生は「ICT活用…世界の常識とは」というテーマで研究を行うとともに、ウェブコンテンツ制作のハウツーサイトの構築に取り組んでいます。23期生は「MaaS、AI、安心・安全」を念頭に、オープンデータを活用したアプリケーションの開発、22期生はAI社会などをテーマとする卒業論文の執筆に取り組んでいます。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業パーティや海外視察、花見や枝見、運動会など、ゼミ行事の多くが中止となりました。毎週のゼミをはじめ、ゼミ募集の説明会や選考面接、最終の研究発表やコンパはオンラインで開催されました。(写真)また、異例のオンライン開催となったEVEではゼミ生の共同制作による「GPSアート」の作品を出展、恒例の「ブリクラ」サービスはSNSを活用して行いました。



### 宮澤和俊ゼミ

文・鈴木康太

皆さんこんにちは。私たち宮澤ゼミは、今年新たに22名の2年生を迎えて公共経済学をテーマに活動しています。普段の授業では公共経済学に関するテキストの輪読を行い、難解な部分などは宮澤先生に補足説明をしていただきながら理論を学んでいます。またOECDデータなどを用いてExcelで回帰分析を行い、実証分析もしています。さらに「北野天満宮」や「南禅寺」といった公共事業にゆかりのある場所を散策してゼミ生の親睦を深めています。今年度はコロナの影響で課外活動がしばらくの状況が続きましたが、秋学期から学生プロジェクトが始まり、1月末の最終報告会に向けて研究を進めています。今回は「重要文化財の修繕費用による経済便益」をテーマとして宇治市の平等院を対象に実地調査やヒアリング調査を行っています。このように宮澤ゼミでは京都の街や文化に触れながら公共経済学の知見を深めて、自ら設定した課題に向き合い、全員で成長できることを目指しています。



私たち茂見ゼミは、メカニクスデザインをテーマに、総勢23名で活動しております。2年次では、教科書を熟読し、個人で章ごとに発表をし、全員で意見を共有することで、既存の多数決の制度を疑い、多数決とは本当に正しい考え方であるか、全員の誘因を損なうことなく決定を行なえる多数決の制度をどのように作れるのかを考え直してきました。

3年次では、例年、経済学部主催のビジネスコンテストやディベート大会に力を入れておりますが、今年度はコロナの影響で中止となり、代わりにゼミ内でビジネスアイデアコンテストを開催しました。企業の新たなビジネスを模索し、チームごとに様々なビジネスアイデアを発表し、優勝を競い合いました。日々個性豊かなメンバーと切磋琢磨し、茂見ゼミで学んだことを活かしながら、これからの卒業論文や就職活動に取り組んでいきたいと思っております。最後に、先輩方の益々のご活躍を心からお祈りしております。



### ■新関三希代ゼミ

文・倉田健太郎

私たちは新関三希代先生のご指導の下、ブルームバーグ学生投資コンテストと日経STOCKリーグの2つの活動を行いました。春学期はコロナウイルスの影響で、オンラインという不慣れな環境の中での授業でしたが、新関先生の熱心な指導や、社会でご活躍される沢山の先輩方のご支援のお陰で、大変充実したゼミ活動を行うことが出来ました。ブルームバーグ学生投資コンテストでは「日本株×ESG投資」というテーマのもと、論文作成を行いました。ゼミ活動として初の試みでしたが、2位、3位のダブル入賞を果たしました。日経STOCKリーグでは、約半年間かけて論文作成を行いました。昨年度の第20回大会では敢闘賞を頂きました。本年度の論文作成の過程では、法政大学とオンラインでインターゼミナールを開催し、意見交換をするこ



### ■西村卓ゼミ

文・小池 峻功

わがゼミは西村卓先生のもとで、男子学生9名、女子学生7名の計16名で活動しています。わがゼミでは「職人企業における伝統の継承と革新」という大テーマのもと4班に分かれ、それぞれ米問屋の「八代目儀兵衛」、ブランド牛としての「近江牛」、京町家を再利用する「京都のリノベーション」、丹後の造り酒屋「木下酒造」についてフィールドワークを行い、そこに関わる人びとの生の声を聞き取り、研究をしています。「個の企業に着目し、生産、流通、消費を知ることにより、一つ一つ解き明かしていく、全体を理解することが出来る。つまり、個の中に経済全体が凝縮されている」ことをわがゼミのモットーに、私達はゼミ活動に励んできました。ゼミでの研究だけでなく、時には教授やゼミメンバの誕生日を祝ったり、先生のジョークで笑ったり、和気あいあいと過ごしています。西村ゼミは、私達の代で最後になります。コロナ禍でフィールドワークが辛い状況ですが、悔いの残らないように頑張りたいと思います。



### ■西岡幹雄ゼミ

文・石田 理恵

「地域の経済と思想」私たちは西岡先生のご指導の下、「地域の経済と思想」をテーマとし、グループで研究を進めて参りました。今年度は、京都や奈良、大阪など関西の学生らしい研究を行いました。どの研究も、コロナの影響を踏まえるなどタイムリーさが持ち味です。研究の成果を発信する場として、今年度も他大学との交流会が三度設けられました。参加校は本学を含め五大学（関西学院大学・南山大学・大阪府立大学・大阪経済大学）でした。コロナの影響で今年度は初のオンライン開催となりましたが、交流を深め議論を交わし、多様な視点を取り入れることで、研究に磨きをかける良い機会となりました。

ウィズコロナの時代、一極集中から分散型ネットワークに移行する中で、地域が注目を集めることが予想されます。今後本ゼミでは、地域という社会の最小単位で様々な地域の経済に触れ、研究を進めることで地域活性化について学びを深めて参ります。



### ■落合仁司ゼミ

文・石川颯太

私たちは落合ゼミでは、行動経済学・制度経済学を勉強しています。2・3年次は、これらの学問の基礎理論である、精神分析や構造分析について書かれたテキストを読みました。2年次演習では「シシマ」精神分析事典から、「自我」や「無意識」などの項目を取り上げ、その内容について発表を行いました。今年度は、前期にゼミで集まるのが困難になったため、ジル・ドゥルーズ『ザットヘルマゾツホ紹介』、S・フロイト『自我論集』をあらかじめ読んでおき、後期の授業でその内容を扱うという形式をとりました。これらの本の内容は人間の根源的な性質を扱っており、難解に思われますが、そもそも経済というのはそういった分かりにくい人間の行動から成立しています。その原理を学ぶことは、経済ひいては人間活動の基を理解するうえで非常に意味のあることだと感じます。

今後はゼミでの学びを活かし、就職活動や卒論執筆に取り組みしていきます。



### ■奥田以在ゼミ

文・佐々木善健

こんにちは。奥田ゼミ7期生です。「何事にも全力で妥協しない」ことをモットーとしている私たちは、「京都の職人と老舗」をテーマに、奥田先生のご指導の下、研究を行っています。具体的には、4〜6人で構成した班ごとに細かな研究テーマを策定し、それぞれが職人の方々とお話を伺い、研究を進めています。その中で7期生は、珈琲と蕎麦をテーマに研究しています。また例年、研究の他にも、同志社EVEでの模擬店の出店、ゼミ生の学年の垣根を越えた交流を図る合同ゼミの実施などの取り組みを「プロジェクト」として位置付け、研究と並行して行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で同志社EVEへの出店は叶いませんでしたが、新たなプロジェクトを立ち上げ、実行するなど、常に充実した日々を送っています。このような活動ができるのも、OB、OGの方々や職人の方々、先生など、多くの方々の支えがあってこそであると感じます。常に様々な方々への感謝の気持ちを持ちながら今後も活動して参ります。



### ■大野隆ゼミ

文・關真理

私たちは大野ゼミは政治経済学をテーマに39人で学んでおります。大野ゼミでは、2年次論文・3年次論文・卒業論文と3度論文を作成します。2020年度、2期生は、テキストの輪読で政治経済学の基礎を学んだ後3人一組で論文執筆を行い、3期生は2人一組で論文作成を行いました。また、私たち3期生は12月に6大生7ゼミ合同で行われたゼミナール大会に出場し、出場した6組中2組が優秀賞を受賞するという嬉しい結果を得ました。そして、4期生はこれまでの学びを活かし、1人で卒論を書き上げます。私たちは、ゴールが一つとは限らない論文を作成することを通して、答えのないものに対処する力を得ました。そして、その力は論文と同じく明確な答えのない社会を生き抜く上で支えになるものであると確信しています。

これからも、学生に真摯に向き合ってください先生、支えてくださる卒業生の皆様への感謝を忘れずゼミ生一同ゼミ活動に励んでいきます。



### 小野塚佳光ゼミ

文・多田一範

私たちのゼミでは、小野塚先生の下、国際政治経済学について戦後経済史を中心に日々学習を進めております。2020年度は、イギリスのEU離脱やアメリカ大統領選、コロナウイルスなど国際政治経済学（IPE）において注目すべき出来事が多い一年となり、ゼミ内で学びを深めることができました。ゼミ関連科目も含め、ゼミ生が個人もしくはグループに分かれ、各自調べた内容を全体へプレゼンする形で授業を進めております。ゼミ生自身が学生視点で調べ、それに対して先生が意見や学びを与えてくださることで主体的な学びを日々積み重ねられております。今年度新しく加わった学生も含め、現ゼミ生は個性豊かなメンバーが揃っております。そのため、授業を進める上で多様な視点からの質問や意見が生まれ、互いに刺激しつつ学習を進められております。



来年度の卒業研究に向け先生の歴史的な観点からIPEの学びを深めていきたいと考えております。

### 太下義之ゼミ

文・門田寛生

私たち太下ゼミは2020年度に新設され、新たに2年生13名を加えた総勢16人で、主に文化政策の研究をテーマに活動しております。私が在籍している3年次の活動では3人という少人数での活動にはなりませんが、文化政策に関連する数冊の書籍の中から学生が主体性を持って興味のあるものを選択し、その内容について要約、気になった点や疑問を持った点についてまとめたものを毎週それぞれが持ち寄り発表することで、自らの理解を深めることはもちろん、自分にはなかった着眼点から文化政策の在り方について学び、教授も加えた4人で少人数での授業だとは思えないほどの活気のある活動を繰り返しております。



今年はコロナ禍での活動ということもあり、回生の枠を超えた交流ができず、残念に思っていますが、さらに交流を深め、今以上に楽しく積極的に努力するゼミを目指し、これから始まる太下ゼミの歴史を切り拓いていきたいと思っております。

### 佐竹光彦ゼミ

文・渥美卓也

私たち佐竹ゼミは、日本経済の実証分析をテーマに研究を行っております。2年次の後期では内閣府の「経済財政白書」を輪読し、実際のデータをを用いてデータ分析を行い、日本経済の現状について学んでいます。3年次には中級レベルの計量経済学のテキストを扱い、慣れない数式に悪戦苦闘しながら計量経済分析の理解を深めています。卒業研究では実際に学んだ計量分析手法を用いて、各自が興味のあるテーマについて実証研究を行う予定です。現在は2年次生、3年次生それぞれ7名と、比較的少人数で活動しておりますが、その分佐竹先生は一人一人のゼミ生の意見を尊重し、丁寧な指導をしてくださいます。また、少人数が故にゼミ生同士の絆も強く、日々「One Team」でゼミ活動に精進しております。先生からご教授いただいた知見や、ゼミ生同士の熱心なディスカッションをもとに、これからの卒業研究や就職活動に「全集中」で取り組んでいきます。



### 鹿野嘉昭ゼミ

文・大谷拓也

みなさんこんにちは。私たち鹿野ゼミは金融学の権威である鹿野教授のもと、約25名のゼミ生で活動を行っております。主に学んでいることは日本経済と金融についてです。2020年度の主な活動は文献を用いたプレゼンテーションでした。今年度はコロナウイルスの影響もあり、対面形式でのゼミの活動を行うことは難しくなったため、オンラインでプレゼンテーションを行うなど様々な困難が付き纏っていました。そんな中でも質の高い講義を行ってくださったことには、ゼミ生一同感謝しております。難解な本を読み解き、要点をまとめ、うまく相手に伝えることは大変難しく、時には厳しい意見をいただくこともありましたが、今後の人生において、この経験はなんらかの形で私たちの役に立つと思います。我がゼミの活動は自由な時間が大変多く、ゼミの活動以外では飲み会やスポーツ大会（コロナウイルスの影響で開催できず）を行っており、とても居心地の良い場所と言えます。鹿野先生や先輩方は、就職や悩みがあった際には非常に親身に寄り添ってくださいと、素晴らしい点でもあります。OB・OGの方々、鹿野先生に感謝しながら、ゼミ活動に全力で励みます。



### 高井才明ゼミ

文・中島広樹

昨今の未曾有の災禍の中、先輩方がお過ごしでしょうか。現在の高井ゼミでは、新たに2年生（18期生）24名を加えた総勢73名で活動しております。コロナ禍であった本年度のゼミでは、16期生はITに関するテーマの卒業論文の執筆、17期生はJavaScriptを用いたWebアプリ制作や、サーバー環境の構築、18期生はウェブページ制作といった課題をMicrosoft Teamsを使ったオンラインゼミで取り組みました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、夏休みの合宿が中止となってしまったことや授業以外での3学年そろっての懇親会、忘年会、各種レクリエーションなどの課外活動、交流の機会がなくなり一回悔しい思いをしましたが、それでもオンラインを通じた交流などにより、ゼミの雰囲気を高めてより良いゼミ活動になるよう3学年そろって頑張っております。



### 竹廣良司ゼミ

文・関崎祥生

私たち、竹廣ゼミは「企業の戦略的行動の実証分析」のテーマのもと、企業の組織や戦略、関係などについてグループで研究・発表しております。また、春学期には、統計ソフトのSASについての授業も演習関連科目として学び、1月にはそのSASの検証を元にした論文報告会を小林ゼミと合同で行います。今年度は、例年と違いコロナウイルスの影響でイベント大会も開催されなかったため、例年以上に行動に制限がかけられた年でした。その中でも、ゼミ全体の活動として、経済学部学生プロジェクトに大半の学生が自主的に参加し制限のある中でも3つのプロジェクトが立ち上がり進行しています。年明けからは就職活動も本格化し、日々の中で自分と向き合い学生は四苦八苦しながら将来に向け、確実に成長しながら邁進しております。ゼミでの学びがどこかで生きることを信じて学んでおりますので、今後とも竹廣ゼミをよろしくお願いたします。



### 田中靖人ゼミ

文・仙水大己

私たち田中ゼミは、学生自らが考え行動する「学生主体」をテーマに掲げ、日々活動に取り組んでいます。自分たちが成長するために何が必要かゼミ生同士で話し合い、常に目的意識を持ちながらゼミを作り上げています。今年度はコロナウイルスの影響もあり主に2つの活動に取り組みました。1つ目は経済学部ゼミ紹介に関するInstagramの作成です。例年この活動はフリーペーパーを作成しているのですが、コロナウイルスによりそれができなくなりました。そこで私たちはInstagramに目をつけました。より多くの学部生に見てもらうために、周辺の飲食店の紹介などの創意工夫を凝らし、より目を惹き楽しめるものを目指しました。2つ目は論文大会 WePa の運営・執筆です。論文大会という非常に難しいテーマに対し、全力で取り組むことで普段の生活では経験することのできない貴重な経験や大きな成長に繋げることができました。



### 谷村智輝ゼミ

文・マーメットタラ

私達谷村ゼミでは、資本主義経済のグローバル化をテーマに活動しています。今年度の3年生（18期生）の活動を例に挙げると、前期は、テキストの輪読を通して、資本主義が「非物質化」の方向へと進化している点に着目し、日本経済をとりまく課題を理論的かつ包括的に捉えました。また、春学期はコロナ禍により、オンライン上でゼミ活動を行いました。毎回の授業をみんなで作り上げ、実りある学びの時間とする事ができました。秋学期は、グループ研究を行いました。テーマ設定、研究内容、結論といった「研究の全て」をゼミ生自ら考えることで、「学び」について改めて考えることができました。それまで「与えられるモノ」であった「知」が、自ら「探すモノ」になったことで、日常を新たな視点で見られるようになったのです。また、消費者庁の活動の一貫で、キャッシュレスについて考える機会もありました。



### 角井正幸ゼミ

文・牧野 優里

私たち角井ゼミは、「アメリカにおける経済問題の実証分析」を演習のテーマとして活動しています。2年次には、Excelを使いデータ分析を行いアメリカの経済問題を考えました。3年次の春学期には、ピケティ氏の「21世紀の資本」を読み、アメリカ経済がどのように発展してきたのかについて学習してきました。秋学期から4年次にかけては、卒業研究として、各々がアメリカに関連するテーマを定め研究を行っています。私たち角井ゼミは、学生の主体的な参加を重視しています。また、毎回のゼミで複数のグループを作り、角井先生から与えられた課題をこなしています。その結果、分かりやすいプレゼンテーションはどのようなものかといった社会人になっても必要なスキルを身につけることができました。学生が主体となって活動していくことは、難しい場面も多くありますが角井先生の場合に適切なアドバイスでここまで学習することができました。これからも活発なゼミ活動をしていきたいと思っております。

### 上田曜子ゼミ

文・梅澤果音

私たち上田ゼミは開発経済学について学んでいます。開発経済学とは、世界中で起こっている、貧困・教育格差・政治不安・内戦等の諸問題について経済的かつグローバルな視点からアプローチする学問です。普段の授業では、教科書を用いてグループワークを行い、設問に対して個人の意見を出し合いながら議論しています。またその意見に対して先生から質問を受け、考えを深めることに繋がっています。先生はタイに滞在されていた経験があるため、現地を感じたことや実際に起こった問題などの話を聞くことができます。また今年も、2回生は秋学期にゼミ内のデイベート大会を行い、3回生はWePa論文発表会に出場しました。これらの活動を通して、自分の意見を自分の言葉で発表する力や、考えを文章にまとめる力がつきました。今年度はコロナウイルスの影響で、異例の年となりましたが、各学年の活動に個々が励んだことで、実りある1年となりました。



### 和田喜彦ゼミ

文・中岡 尚也

私たち和田喜彦ゼミでは主に経済と環境の両立を考えるエコロジイ経済学について学んでいます。また、間接的な情報を鵜呑みにすることなく、直接現地を訪れて検証するという「現場主義」を念頭にフィールドワークを行い、より現実を踏まえた発表ができるように研究に取り組んでおります。例年であれば2月にはゼミ合宿を取り組みますが、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、今年は断念いたしました。同様に春学期におけるゼミ活動はすべてZoomアプリを用いてのオンライン授業となり、各個人が個々に調べ全員の前で発表を行うほかグループに分けてのデイベートを開催するなどとして、コロナ禍の中でも研究を進めて参りました。秋学期に入ってから2回生を迎え、11月には全学年合同での発表会を行いました。2・3回生はグループに分かれ各自でテーマを掲げプレゼンを行い、4回生は卒業論文の経過発表を行いました。そして12月には5大学の環境ゼミによる合同発表会に参加しそれぞれの研究成果を発表し、また第2回SDGs日本政策学生研究会に参加した2回生が優秀発表賞を受賞しました。



### 和田美憲ゼミ

文・唐澤瑠奈

和田美憲ゼミでは、「行動経済学と経済心理学の研究」を演習テーマに掲げ、日々活動に取り込んでいます。私たち二年生は約半年間の活動の中で、二冊の本を通して班ごとにプレゼンテーションを行い、行動経済学の基礎と実験に必要な統計学の基礎を学びました。3年次の春学期からは、日常に潜むヒントや二年次に学んだことを活かし、最終的に自分たちの行動経済学を作ることができるよう、さらに学びを深めていく所存です。新型コロナウイルスの影響もあり、今後の具体的な活動については決まっておらず、3年次も先生とゼミ生のみならず議論し話し合いながら、ゼミでの学びを楽しんでいきたいと思っております。



## 八木匡ゼミ

文・佐藤 琉生

「生徒主体の研究環境」

八木ゼミでは、研究を進めるにあたって、細かいルー ルやカリキュラムがほとんどなく、自分たちのペースで 学習できる環境となっており、この環境に私は感謝して います。生徒が主体になって研究できる環境であるから こそ、私たちも責任をもって報告会に挑むことができま す。

時には、私たちの問題を解決するアドバイスを先生は 与えてくださいます。直接的な指示では無く、私たちの 思考をリードするようなアドバイスで、生徒の主体性を 尊重していただけていると実感しております。

現在は新型コロナウイルスの影響で、教室内のみでの授 業形式を強いられていますが、以前は、イタリアの学生 と授業を受けたこともありました。コロナ禍でも、オン ライン形式で、企業の方々とお話しさせていただきまし た。柔軟で多面的な授業形態です。

私は2年次の時から留学に行くことを考えていました が、新型コロナウイルスの影響で1年延期になりました。 この際も、背中を押してくださり、安心して準備ができ ています。

四谷晃一ゼミ 文・西村拓  
私たち四谷ゼミは、「教育の経済」をテーマに活動し ています。三年次までに二冊の参考書を通して学んだ人 的資本の基礎をもとに、秋学期には「グループ研究」に 取り組みました。二つの グループで「中等教育ま での課外活動が所得に与 える影響」「各学部による 平均年収の差異と要因」 をテーマに発表を行いま した。また、ゼミ内で「消 費税を15%に引き上げ るべきである」「外国人労 働者の受け入れを拡大す るべきである」について デイバートを行いました。 本来であれば、デイバー トやグループ研究は関西 学院大学の田畑ゼミ、同 志社大学の宮澤ゼミとの 合同ゼミで行う予定でし たが、新型コロナウイルス 感染症の影響により中 止となり、春学期のゼミ がオンラインで行われる など、満足とは言えない 環境の中、四谷先生のも と主体的で実りのある活 動に努めました。



## 山森亮ゼミ

文・永井 美優

現在山森研究室では、社会的連帯経済を主なテーマと して研究を行っています。そのほか経済問題だけでなく 様々な社会問題に対して自分たちで調べたり、本を輪読 したり、テーマを設定して議論しあったりしています。 フェアトレードやベーシックインカム、エッセンシャル ワーカー、NPOなど取り組んだことは多岐に渡ります。 また調べて議論するだけでなく、実際にフィールドワー クに赴いて社会人の方や専門家から話を伺ったり、ゼミ にいるいろんな分野の方々が登壇してくださったりして います。テーマは 多様ですが、共通 点を挙げるとする と「経済活動に関 係した、より良い 社会のあり方」を、 議論やテーマの先 に見据えているよ うに感じます。そ の先を見据えてい るからこそ、先に のべたテーマや、 社会課題に関連し たテーマが扱われ ることが多いのだ と思います。ゼミ 生も社会問題に関 心が高い人が多い です。



## 横井和彦ゼミ

文・鄭以謝

「15期生活動報告」私たち横井ゼミでは中国経済の発展 を、経済のグローバル化と国際化の違いに注目しながら 学んできました。理論的な数学モデルではなく、一番現 実的なデータを活用して中国の過去・現在・未来を分析 し、研究してきました。私たちは15期生で、2回生の 秋に15周年記念パーティーが盛大に行われたことが印 象に残っています。大勢の先輩たちも来てくださり、私 たちと仲良くなり、色々なアドバイスもいただきました。 横井ゼミ縦の繋がりの深さ を感じました。2回生の時 には上海に行き華東理工大 学社会学系系の徐榮ゼミと 交流ゼミを行うことができ ました。横井ゼミには日中 韓3ヶ国の学生が混在して いるので、様々な視点から 国際交流ができました。3 回生の時には日本企業の国 際経営を学んでいる名城大 学経営学部の田中武憲ゼミ と名古屋で合同ゼミを行 いました。4回生となった今 年度はコロナ禍で思うよう な活動ができませんでした。 普段の横井先生との食事会 での交流もできませんでし た。コロナ禍が収束するこ とを願っています。



## 「卒業生のつどい-京都-」開催 ぜひお越しください!

7/10 (土)【予定】

講師： 日本ラグビーフットボール協会 顧問 坂田好弘氏【予定】

1965年経済学部卒。日本ラグビー協会顧問(前副会長)、関西ラグビー協会顧問(前 会長)、大阪体育大学名誉教授、元ラグビー日本代表(cap16)、ラグビー・ニュージー ランド学生選抜、カンタベリー州代表。2012年国際ラグビーボード殿堂入り(アジア 人として初)、2021年ニュージーランド政府よりニュージーランド・メリット勲章受勲。 日本ラグビー史上最初のワールドクラスのプレーヤーで「Flying Wing Sakata」と称賛 されニュージーランドでは「Five Players of The Year」にも選出(1968年)

日時： 2021年7月10日(土) 場所： からすま京都ホテル【予定】

## 訃報

同経会顧問(オムロン株式会社・元代表取 締役社長)立石義雄さん(80歳)が、昨年 4月21日火曜日、永眠されました。

通夜及び葬儀(喪主：長男立石郁雄)は、 近親者のみにて執り行われました。ご遺族の 強いご意向により、新型コロナウイルス感染 拡大防止を踏まえ、人の移動と接触を伴う御 弔問は固くご辞退されましたことを追記いた します。

1962年3月 同志社大学経済学部卒業

職歴：

1963年4月 立石電機株式会社(現オムロン株式会社)に入社

1987年6月 同社代表取締役社長に就任

2019年11月 同社名誉顧問に就任

その他の職務：

1996年6月 京都駅ビル開発株式会社取締役役に就任

2006年6月 日本国際貿易促進協会京都総局長に就任

2007年5月 京都商工会議所会頭に就任(2020年3月31日退任)

2012年6月 公益財団法人立石科学技術振興財団理事長に就任

2018年11月 一般社団法人京都知恵産業創造の森理事長に就任

2020年4月 京都商工会議所名誉会頭に就任

## 同経会役員名簿

(2020年12月現在)

役名	委員会	氏名	卒年
名誉会長		小嶋 淳司	S37
顧問		千 玄室	S21
顧問		辻本 光彦	S25
顧問		川勝 泰司	S28
顧問		秋山 哲	S32
顧問		井上 礼之	S32
顧問		福井 正憲	S33
顧問		播島 幹長	S33
顧問		森本 弘道	S34
顧問		細見 吉郎	S34
顧問		西口 廣宗	S34
顧問		岩崎 隆	S35
顧問		吉田 忠嗣	S35
顧問		中嶋 利宗	S40
顧問		北尾 哲郎	S46
顧問		八田 英二	特別
顧問		角井 正幸	特別
会長		服部 盛隆	S41
副会長		渡邊 隆夫	S37
副会長		高木 壽一	S39
副会長		岡田 博邦	S46
副会長		昌尾 一弘	S46
副会長		小川 佳秀	S50
副会長		小平 真滋郎	S55
専務理事		鍵 圭一郎	H1
会計責任者		小杉 將之	H1
監事		横田 聡	H3
執行理事	総務	小林 敬三	S38
執行理事	東京	濱田 浩實	S40
執行理事	総務(つどい)	山本 忠男	S40
執行理事	東京	辻川 茂樹	S42
執行理事	総務(つどい長)	近藤 和夫	S44
執行理事	東京(長)	高橋 健治	S44
執行理事	総務	立木 貞昭	S44
執行理事	総務(つどい副)	今出 健一	S46
執行理事	大阪	志賀 茂	S47
執行理事	名古屋(長)	萱原 昇	S49
執行理事	総務(つどい副)	西村 猛	S49
執行理事	総務(つどい)	松尾 卓志	S49
執行理事	大阪	岸田 博	S50
執行理事	広報	中島 信幸	S50
執行理事	財務(長)	吉田 誠吾	S50
執行理事	総務(つどい)	長田 宏	S52
執行理事	大阪(副)	新村 明男	S53
執行理事	大阪(副)	早瀬 孝行	S53
執行理事	東京(副)	松谷 哲	S53
執行理事	総務(つどい)	谷村 俊治	S54
執行理事	広報(長)	中谷 豊美	S54
執行理事	総務	村田 市郎	S54
執行理事	総務(長)	河合 一郎	S55
執行理事	東京	山添 俊之	S55
執行理事	総務	高田 啓史	S56
執行理事	しめた	牧野 正裕	S56
執行理事	しめた	宮村 定男	S56
執行理事	企画	吉井 英雄	S57
執行理事	大阪(長)	土橋 純二郎	S58
執行理事	総務	中野 耕太郎	S58
執行理事	総務	若田 昌宏	S58

役名	委員会	氏名	卒年
執行理事	東京(副)	阿部 聡一	S59
執行理事	企画(長)	荒木 勇	S59
執行理事	企画	鎌田 伸一	S59
執行理事	企画(副)	藤井 宏樹	S59
執行理事	東京	末永 雅春	S60
執行理事	企画(長)	中村 恭俊	S60
執行理事	しめた	久保 行央	S61
執行理事	しめた	松井 勝史	S61
執行理事	大阪	小原 康正	S62
執行理事	企画	山下 泰生	S62
執行理事	企画	遠藤 裕策	S63
執行理事	企画(副)	沼井 哲男	S63
執行理事	しめた	前田 敦	H2
執行理事	しめた(長)・大阪	齊藤 賢一	H4
執行理事	名古屋	武田 卓也	H4
執行理事	大阪	清水 友紀	H6
執行理事	広報(編集長)	高木 伸浩	H6
執行理事	東京・企画	伊藤 弥生	H7
執行理事	大阪	植田 健一	H7
執行理事	名古屋	近藤 裕幸	H7
執行理事	大阪	太田 亮士	H8
執行理事	東京	志井 慶吾	H9
執行理事	大阪	馬場 圭吾	H12
執行理事	しめた・大阪	廣石 佑志	H13
執行理事	大阪・総務	八木 香織	H14
執行理事	しめた(副)・広報	三輪 幸徳	H22
執行理事	名古屋	関本 駿	H24
執行理事	しめた	熊田 里沙	H27
理事		橋本 久幸	S38
理事		那須野 昌司	S39
理事		山本 清	S40
理事		田島 繁	S41
理事		西畑 義昭	S41
理事		大江 美智子	S42
理事		高橋 修	S44
理事		田島 和憲	S45
理事		饗庭 一慶	S46
理事		池田 博義	S46
理事		杉田 啓三	S46
理事		吉田 進	S46
理事		岩崎 寿太郎	S49
理事		山本 源兵衛	S49
理事		神山 研一	S52
理事		石塚 清司	S53
理事		光田 周史	S54
理事		前川 宗博	S55
理事		塩川 雅之	S59
理事		佐野 克也	S61
理事		西村 裕子	H8
理事		塚崎 幸司	H11
理事		西田 憲弘	H15
理事		大谷 淳子	H16
理事		北川 雅章	特別
理事		西村 卓	特別
理事		鹿野 嘉昭	特別
理事		伊多波 良雄	特別
理事		竹廣 良司	特別
理事		新関 三希代	特別
理事		横井 和彦	特別



## 同志社大学経済学部 同経会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL:075-251-3524 FAX:075-251-3136  
URL: [www.dokeikai.com](http://www.dokeikai.com)

2021年4月1日 発行  
編集:同経会 広報・編集委員会  
発行人:同経会会長 服部盛隆

## お詫びと訂正

24 ページ「特別インタビュー」

高木壽一さんの同経会肩書きに間違いがありました。

正しくは (正) 同経会副会長 ← (誤) 同経会理事 です。

謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

同経会編集委員会